

令和 4 年度

自己点検・評価報告書

専門学校さくら国際言語学院



2023 年 12 月 27 日

令和 4 年度自己点検・評価委員会 作成

委員長 さくら国際言語学院 校長 下橋由美

副校長兼日本語学科主任 竹内佐織

国際学科主任 宝田克子

事務局長 上田和宏

事務主任 野津恵理香

【点検項目5 学生支援】

5.1 日本社会を理解し、適応するための取組を行っている

- ・入学時に通訳を入れてゴミ分別と実技によるゴミの捨て方のオリエンテーションをしている。ゴールデンウィーク明けには下関市クリーン推進課ごみダイエット係のご協力を得て、『ゴミ分別指導講習会』をお願いした。その後も学期末の大掃除のタイミングなどですべての学生がゴミ分別をするチャンス进行、何度も繰り返し教え続けている。
- ・交通安全指導、生活安全指導は警察の外事課に依頼している。
- ・消防指導は本校より通訳を伴い、消防防災学習館「火消鯨」に移動して、消防士より、消火体験、煙避難体験、防災シアター、通報体験の指導をお願いした。
- ・アルバイトは生の日本社会を体験する絶好の機会である。そこで、定期的にバイト先との関わり方を指導するオリエンテーションを設けて指導している。指導内容としては、時間を厳守するということや報告・連絡・相談(ほうれんそう)、目上の人への言葉遣いなどを教えている。日本的な感覚を教えることでアルバイト先でのトラブルを避けるのが目的だが、実際にはトラブルが起きてしまうことも多い。学生から相談があった場合は、個別に面談をし、具体的なアドバイスや注意点を指導している。
- ・フードバンクやボランティアの方々より、お米や卵、パンやお菓子、飲料水などの食料支援の回数も増えている。
- ・下関海響マラソン2022のボランティアに参加した学生はランナーの応援やマラソンコースの管理に従事した。

5.2 進路指導を適切に行っている

去年までは2年生の6月に大原学園のご厚意により面接の講習会、志望理由書の書き方の講習会を実施していたが、今年は校内で独自に実施した。進路指導に関しては昨年度、今年度同様の流れとして、7月にライセンスアカデミー主催の進路ガイダンスに参加し、9月には本校とライセンスアカデミー共催の進路ガイダンスを実施している。今後も、教員間でどのような進路指導が必要か、またどのような問題があるかについて意見交換を行い、今後の取り組みについて考えていきたい。

・進路指導1(入学時進路指導:1年生全員対象)

進路を決めるまでに必要なこと、進学先に提出する書類等、今から気を付けなければならないことについての注意喚起を目的として進路指導をしている。

・進路指導2(1年秋:全員対象)

2年次の学費支払いに関する説明会とともに、進路指導を実施している。進学に関する経費について、計画の立て方、収支管理等について進路指導をしている。

・進路指導3(2年進級時:2年生全員対象)

志望校の決め方、出願書類の準備方法、今から準備しなければならないこと等について注意を含め進路指導をしている。

・進路指導4(大学・専門学校説明会参加:2年生全員対象)

ガイダンス参加前にガイダンスでの注意等の指導を行っている。

・進路指導5(個別指導)

担任教員による個別指導を行い、志望校の聞き取り、出願についての条件の確認、出願書類の取り寄せ等、より具体的な進路指導を行っている。

・進路指導6(個別対応)

出願手続き、出願書類の準備、面接指導、入学手続き等より詳細な進路指導を行っている。

5.3 重篤な疾病や障害及び交通事故のあった場合の対応を定めている。

・必要に応じて、学生の症状にあった病院を紹介し、引率している。予防接種や受験時の健康診断に関しては、ひとつもと内科医院に依頼している。

・入学直後の健康診断は下関健康管理センターで行っている。結核に感染している学生が判明したので、直ちに下関保健所と連携を取り、隔離、投薬治療のため入院した。既に無事完治して復学した。入院中はオンラインで授業に参加した。

・コロナやインフルエンザで学級閉鎖、休講にすることはあったが、短期間で感染を封じ込めることができた。また、体調がいい学生は隔離中でもオンラインで授業に参加することができた。

・交通事故に遭ったネパール人学生がいたが、ネパール人のスタッフが親身になってサポートし、無事に復学した。

5.4 入管上の留意点について学生への伝達、指導を定期的に行っている。

まず、入国時オリエンテーションにて事務員と各国のスタッフより留意点についての伝達、指導を行っている。オリエンテーション時にはその参加状態を撮影し、個々に理解したら承認の署名をもらっている。それ以降は、定期的に長期休暇に入る前、学期末毎に全学生を集めて、伝達、指導を行っている。

5.5 不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組を継続的にやっている。

まず、全員、入国時オリエンテーションにて事務員と各国のスタッフより留意点についての伝達、指導を行っている。加えて、下関市警察署の指導の下、生活安全指導講習と交通指導講習を受けている。また、『薬物乱用ダメ。ゼツタイ。教室』はコロナの感染予防の観点から受講は見送ったが、同ポスターを掲示している。来年度は受講の予定である。また、ゴミの不法投棄を未然に防止するため、下関市環境部クリーン推進課ごみダイエツト係のご協力を依頼し、ごみ分別指導講習を実施した。

【点検項目6 教員】

6.1 校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限を明確に定めている

年度末の教職員会議において、全教職員の職務に関して詳細に決定し、これを回覧し確認している。非常勤教員に関しては、授業に専念していただいている。また、全教職員に職務と責任の権限についての一覧を提示、徹底するように周知している。

6.2 教員及び職員の研修等により教育の質及び支援力強化のための取組みをしている

4年度はコロナの影響で外部への研修参加を見送った。オンラインで参加したものもあるが、教員不足により、授業を優先するとなかなか全員集合しての会議は思うように実施できなかった。会議の内容は多岐にわたり、日本語教育についての詳細な知識の獲得から、授業運営、クラスコントロールのための基礎知識、応用力の獲得、また教員間のコミュニケーションを図るための時間もとってある。今後は学生の国籍も多岐にわたり、問題も多く発生していることを鑑み、教職員合同での勉強会、非常勤講師との勉強会、日本語教育学会などの外部研修が必要だと思われる。

6.3 教員及び職員の評価を適切に行っている

評価に関する明確な項目、評価方法を設定したものの、コロナ禍でなかなか厳格な評価は難しかった。適切に評価するために、明確に評価項目を設定し、評価方法について教職員に周知し、評価責任者を明確にしている。今後は評価表をもとに積極的に評価することが望まれる。

【点検項目 7 教育活動】

7.1 理念・教育目標に合致したコース設定をし、カリキュラムを体系的に編成している。

2021年度の日本語学科の概要は以下の通り。

在籍人数 2年生 0名 1年生 4月生 108名、7月生 34名、合計 142名

・クラス状況 全8組(3学期終了時レベル)

- 1組:初中級、N3対策クラス
- 2組:初中級、N3対策クラス
- 3組:初中級、N3対策クラス
- 4組:初中級、N3対策クラス
- 5組:初級2クラス
- 6組:初級2クラス
- 7組:初級1クラス
- 8組:初級1クラス

・クラス分け基準

通常は、1年入学次にレベルを図るテストを行い、4月生は3~4クラスに分け、7月生は1~2クラス、10月生は1クラスになり、合わせて5~6クラスで運営している。ただし、能力の高い生徒は定員を超えない範囲で上のクラスに編入させている。そして2年次進級時にレベル別に分け、クラスを5クラスに編成しなおしている。それにより1組にN1、N2受験予定者、2組~4組にN2、N3受験予定者、5組にN3受験予定者が在籍している。

N1受験予定者は毎年少数ではあるが一定数在籍しており、そのためのクラスは必ず確保すべきであり、同様にN2受験予定者のためのクラスも設ける必要がある。N1、N2は漢字圏学生中心で、毎年少数の非漢字圏学生がこれに混ざる。本校の大半が非漢字圏学生であり、非漢字圏学生の多くがN3受験予定、もしくはN3にも到達していないレベルの学生である。

非漢字圏学生のレベルアップを図り、N2レベルへ押し上げること、漢字圏学生全員がN2取得、6組に在籍させられるよう、学生のレベルアップを図るための具体的な取り組みが必要となっている。

2021年度入学生はコロナ禍のため、2年生がおらず、1年生のみの運営であった。4月生の中国人2名は1年でN1を取得し、1名はN2を取得したため、進学・就職へ進んだ。ベトナム人も多く在籍し、もともとN3レベルの学力があったものもあり、漢字学習にも意欲が見られた。多国籍であるが、とても仲が良く、日本語でのコミュニケーション能力が養われているように感じる。非漢字圏が多いものの、漢字にも意欲的である。しかし、来日前の学習が足りない学生や、来日遅れの学生は表記の問題も多かったため、なかなか初級から抜け出せずにいた。

7.2 授業開始までに学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている

来日前にオンライン面接でN5レベルのテストを実施している。来日後は来日順にプレースメントテストを実施している。テストの内容は、ひらがな・カタカナ、N4、N5レベルの筆記テスト結果により、総合的にクラスを編成している。また、国籍や性別が固まりすぎないようにも考慮し、多国籍ならではの利点を生かしている。今年度は特にバングラデシュ人の男性が大勢入国していることが特徴である。

7.3 教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置をしている

2年のサイクルで、初級からN1まで無理なく授業経験ができるよう配慮している。また初めて担当する授業の場合は、担任教員や経験者による同授業を見学の上で授業に入れるようにしている。非常勤の方には教案と授業報告書を提出してもらい、担任教員がチェックし、より学生の個性と能力にあった配置となるようにしている。コロナ禍で出勤制限があったため、非常勤講師は週1回4コマお願いし、その他は常勤で補った。学生数、クラス数の減少のため、やむを得ず休業をお願いすることもあった。

7.4 授業記録簿等を備え、実施した授業を正確に記録している

現在授業記録は毎授業後に各教員が授業報告書として作成し、Lineに投稿したのちにクラス別に綴っている。授業報告書には、出欠、遅刻早退の確認欄、授業科目、テキスト名、授業内容、授業に関する報告事項、問題点等を記載するようになっており、担任が管理しているが、誰でもいつでも閲覧できるようになっている。報告書は出欠の確認のみならず、授業の進度、学生の問題点を確認することにも役立っている。また出席簿はコース・クラス別にファイルしており、授業開始時に授業担当教員が出欠確認をしている。月末には出欠を集計し、出席率は月初に掲示している。

月別の平均出席率(2021年度学科平均出席率 94%)

4月	5月	6月	7月
98.1%	97.1%	96.1%	97.6%
8月	9月	10月	11月
96.3%	96.5%	94.8%	94.3%
12月	1月	2月	3月
90.9%	88%	92%	86%

7.5 理解度・到達度の測定と評価を実施期間中に適切に行い、その結果を的確に学生に伝えている。

授業の理解度、到達度については、課ごとの小テスト、学期ごとの期末テスト、ユニットごとのテストで確認している。また学期ごとにクラス替えのためのデータを取り、全教員による会議において学生のレベル到達度を共有している。成績表は学期ごとに配布し、次の学期への到達目標を明記させ、意識させている。

7.6 授業評価を含む教育活動の評価を定期的に行っている。

授業評価は学生アンケートを回収、教員回覧をして、教員が自己を振り返る材料になっている。また、教員同士が授業見学に入る場合は、必ず授業見学報告書を作成し、授業をした教員へフィードバックをしている。